

- 大学病院・医学部において医学系研究を担う人材を育成するため、国として具体的な支援策を講じることが求められている。

今後の医学教育の在り方に関する検討会 第二次中間取りまとめ

- また、研究者としての自由な発想がより活発になされるよう、組織の垣根を越えた人材の流動性を一定程度確保することが重要な点に留意する必要があるほか、昨今の医学研究の高度化の状況を踏まえれば、医学分野以外の研究分野との横断的な研究がより活性化していくことが期待され、その推進のために、他分野の研究者が医学研究に積極的に参入できるような仕組みづくり等も望まれる。こうした取組も通じ、若手の医師であっても率先して医学研究の新たなフロンティアを開拓し、国内外の様々な研究者と分野を超えて交流しながら、自身の研究者としてのキャリアを積み上げていくことが望ましい。
- 医学研究の更なる充実のためには、大学病院の医師の研究時間の確保等を推進するとともに、十分に整った研究環境が必要となる。国は、各大学の自主性・自律性を尊重しつつ、具体的な支援策を講じていくことを通じて、各大学における研究力の向上に向けた環境整備の取組や研究に携わる人材の育成を後押ししていくことが必要である。

ライフサイエンス委員会 中間とりまとめ（案）

- 研究時間の減少については、我が国の医学研究の中核的な機関である大学病院・医学部において特に深刻である。医師である研究者は、教育・研究に加えて診療にも責任を負うとともに、関連病院への派遣等を通じた地域医療への貢献も求められており、研究時間の確保が非常に困難な状況にある。
- 医師である研究者の研究時間の確保については、研究日・研究時間の設定や、競争的研究費におけるバイアウト制度による診療業務の軽減など、各大学病院・医学部において一定の取組が行われてきた。しかし、医師の働き方改革が進められる中、医師である研究者の研究時間の状況は更に厳しくなることが予測される。
- 国としては、この状況を打開するため、具体的な支援策を講じていくことが不可欠であり、人材育成や研究力向上に取り組む大学病院・医学部の取組と、国家戦略上重要な研究に取り組む研究者の取組を一体的に支援するプログラムを創設することが必要である。

- 医学系研究の研究力を向上させるためには、大学病院・医学部に所属する医師の**研究時間の確保等を推進**するとともに、**限られた研究時間の中で研究成果を最大化**する必要があり、**機関による環境整備と個人・チームの研究活動が同時に促進されるよう、両面から支援**していくスキームが有効ではないか。
- その際、**AIや数理等との分野融合やPh.D.の人材を積極的に呼びこむ**とともに、**流動性向上・頭脳循環を推進**することで、相乗効果の発揮、新たな知の創出を図ってはどうか。

新たな取組のイメージ

- ◆ 人材育成や研究力向上に特に重点的に取り組む大学を支援。
- ◆ 大学の取組への支援と、大学を通じた研究者・チームの研究活動の支援を一体的に行い、研究者を育成。

•大学において、**人材育成や研究力向上に向けた計画**を作成。

【大学の取組例】

- ✓ **研究日・時間等の設定**や他職種への**タスクシフト**等による研究時間の確保
- ✓ **研究DX、医療DX**による研究・業務の効率化
- ✓ 研究者の**多様性と流動性の向上**（Ph.D.や他分野からの優秀な人材の呼び込み含む）
- ※ **基礎生命科学や異分野を含めた多様な人材**からなるチーム形成や、国研や産業界、海外等との頭脳循環など。
（人材の流動性の向上の例：国外の機関との連携など国際頭脳循環、社会実装を見据えた産業との連携、周辺大学との連携 等）

- 大学において、**支援対象とする研究者・チームを選抜**。
- 研究者・チームは、**他の研究者と連携・分担した研究体制**の構築、**DXの推進**、**研究支援人材の活用**等を行い、**研究時間の確保**や、**限られた研究時間の中での研究成果の最大化**に取り組む。
- 国家的・社会的な健康・医療戦略上の課題への対応**についても検討すべきではないか。
- 国等は**研究費の支援等**を実施（**バイアウト制度**も活用）。その際、国として重点的に支援する研究人材像を示すかや、優秀な人材を研究活動に引き付けるための研究活動に対するインセンティブ方策についても、今後検討。

革新的先端研究開発支援事業における新メニューの創設について

ライフサイエンス委員会 中間とりまとめ（案）

- 戦略的創造研究推進事業（CREST、さきがけ等）や革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST、PRIME等）などの一部の競争的研究費では、組織の壁を越えて、アドバイザーや有識者が多様な立場から助言し、トップサイエンスを核としたコミュニティが形成されつつある。こうした取組を加速しつつ、ライフサイエンス研究を担う若手研究者への支援をさらに充実させるため、**より若い研究者を対象とする新たなメニューを創設することが必要**である。
- 戦略的創造研究推進事業（CREST、さきがけ等）や革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST、PRIME等）については、**組織の枠を超えた分野横断的な研究を推進**してきており、これらの事業は**基礎生命科学への代表的な支援事業として確立**し、シーズの源泉となる成果を創出してきた。
- 他方、若手研究者の人材育成の観点からすると、**革新的先端研究開発支援事業（AMED）のソロタイプ（PRIME）については、必ずしも“若手研究者を支援するプログラム”になっているわけではないとの指摘**もある。
- 独創的・挑戦的な研究が期待でき、将来にわたりライフサイエンス研究に貢献していく若手研究者を支援していく観点が重要であることから、革新的先端研究開発支援事業のソロタイプPRIMEにおいて、**AI、数理、工学等といった異分野との連携や出口を意識した研究を牽引できるような優秀な若手研究者を育成**するために、**若い研究者を対象を限定した新たなメニューを創設**してはどうか。